

ピロスマニ (1969)

PIROSMANI

メディア 映画
ジャンル ドラマ 伝記 アート
製作国 グルジア
色彩 Color
時間 87分
初公開日 1978/09/15
公開情報 日本海＝エキプ・ド・シネマ
リバイバル 2015/11/21 [パイオニア映画シネマデスク]

【解説】

革命の胎動が微かに響くグルジア。孤高の天才画家ニコ・ピロスマニは片田舎に住み、居酒屋や食堂の壁にかける絵を製作し細々と暮らしていた。ある日、その地に赴いた画家によりロシア中央画壇に紹介された彼はモスクワへ向かうが、権威主義的な美術界の冷遇を受け、失意のまま帰郷。傷心を抱えつつ自分や同胞のためのみに絵筆をとる生活が続け、ひっそりと世を去る。ルソーにも匹敵するナイーブ派画家として今でこそ評価の高いピロスマニの、簡素にして清廉な生き方をつとめてクールなタッチで捉えたグルジア映画らしい素直な好篇。作品を通じ、彼の独特の画業を振り返ることができるのが嬉しい。

【クレジット】

監督 ギオルギ・シェンゲラヤ Giorgi Shengelaia
脚本 エルロム・アフヴレジアニ Erlom Akhvlediani
ギオルギ・シェンゲラヤ Giorgi Shengelaia
撮影 コンスタンチン・アブリャチン
音楽 V・クヒアニーゼ
出演 アフタンジル・ワラジ
アッラ・ミンチン
ニノ・セトゥリーゼ